

湖北広域行政事務センター

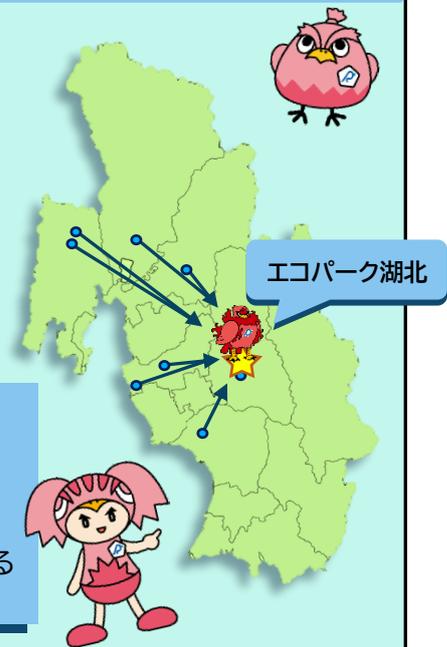
新一般廃棄物処理施設整備運営事業



の特徴について①

1 施設の一極集中(施設集約型)

新施設では、各地に点在していた施設を一か所に集約します。同一の敷地内に各施設を集めて一極整備することにより、一般廃棄物（ごみ、し尿など）の処理を施設間で連携することが可能になります。総合的な廃棄物処理システムを構築して効率的な施設の整備を図ることで、コストの削減につながります。



★施設を集約するメリット★

- ・本来なら施設ごとに必要な管理棟・計量器を1つに集約できる
- ・各設備の連携により、建設にかかるコストを削減できる
- ・場内導線の共有化により、敷地面積がコンパクトになる
- ・複数施設の見学が容易となり、廃棄物処理の総合的な学習による環境意識の向上が期待できる

従来型の施設:個別設置

焼却施設



バイオガス化施設



リサイクル施設



汚泥再生処理センター



各施設それぞれの場所で整備

新施設:施設集約

同一敷地内

焼却施設



バイオガス化施設



リサイクル施設



汚泥再生処理センター



施設間で連携して整備



湖北広域行政事務センター

新一般廃棄物処理施設整備運営事業

Eco-Park KOHOKU の特徴について②

2 施設の一極集中(システム連携)

★システム連携による5つの効果★

- ① 安定稼働……ごみの質が向上し燃焼が安定する
- ② 合理化……ごみ污水・分離水処理施設、脱臭装置が不要になる
焼却炉の規模を縮小できる
- ③ 資源化……資源の回収率が向上する
- ④ 脱炭素……二酸化炭素が1年間で約 1,469 t 削減できる
- ⑤ コスト削減…使用する薬品の量、消費電力量、放流量、最終処分量を削減できる



【連携効果図】

